

特別陳列

西山英雄と一門展

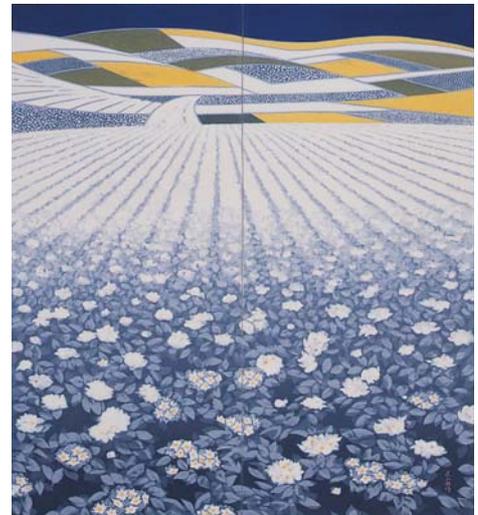
—昭和の巨星と金沢美術工芸大学出身の俊英たち—



春雨 西山英雄 京都市美術館

夏休み親子で楽しむ美術館

さがしてみよう



実る丘 堀 友三郎

ホノルル美術館所蔵

北斎展

—葛飾北斎生誕250周年記念—

■ 書跡と文房具

■ 古九谷・再興九谷名品展



富嶽三十六景 凱風快晴
© Honolulu Academy of Arts

- 8月の企画展示室
- 企画展Topics
- バスツアー報告
- 行事予定

ホノルル美術館所蔵

北斎展 一葛飾北斎生誕250周年記念一

主催／北陸中日新聞、石川県立美術館、石川テレビ

協力／ホノルル美術館

後援／アメリカ大使館、石川県、金沢市、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、エフエム石川

7月16日(土)～8月21日(日) 北斎展は木曜日お休みします

1F企画展示室



富嶽三十六景 山下白雨



諸国瀧廻り
相州大山ろうべんの瀧

■観覧料

一	般	一、二〇〇円 (一、〇〇〇円)
大学・高校生		七〇〇円 (五〇〇円)
中学・小学生		五〇〇円 (三〇〇円)

() 内は前売および二十名以上の団体料金
※当館友の会会員は会員証提示で団体料金に割引

北斎といえば、まず『富嶽三十六景』が思い浮かびます。江戸時代の人々が抱いた富士への憧れと信仰心、当時の旅の流行を背景に生まれ、人気を博したシリーズです。はじめ三十六図で完結するはずが、あまりの人気に十図が追加されたことは、よく知られています。

北斎が題材としたのは、富士山だけではありません。日本各地のあらゆる「名所」が題材となりました。『富嶽』とほぼ同時期に発行されたのが、『諸国名橋奇覧』（大判全十一枚）です。これは周防の錦帯橋、三河の八つ橋など、その特徴的な姿から名橋と称された十一か所を描いたシリーズで、奇抜な橋の構造を巧みに捉えながら、橋をめぐる人々の姿を描き出しています。その翌天保三年（二八三三）に発行された『諸国瀧廻り』（大判全八枚）では、相模大山の良弁滝、大和吉野の義経

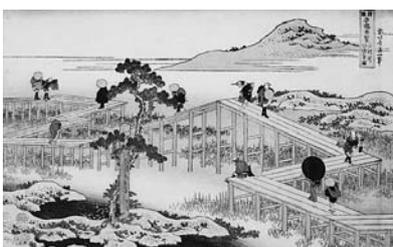
馬洗滝など、各地の名瀑が題材となりました。流れ落ちる滝の勢いを表現すべく、画面をすべて縦長で用い、圧倒的な水量を誇る滝、おだやかな流れと水しぶきを持つ滝など、それぞれの特徴を描き分けました。まるで生きているかのような水の表現に、北斎の奇才ぶりがうかがえます。

ところで、これらの北斎作品から感じられる「涼やかさ」は、どこからくるのでしょうか。それは、画面全体に用いられた色彩「ペロシアンブルー」も呼ばれるペロリン藍は、オランダより輸入された化学染料で、その濃淡の美しさから浮世絵に多用されました。北斎は見事にこれを使いこなし、透明感あるこれらのシリーズを続けて発行したのです。北斎が描き出した涼やかな「名所めぐり」をお楽しみください。

作品保護のため、観覧時間は、午後5時30分まで。毎週木曜日は、休室します。ご了承ください。

この展覧会に出品される浮世絵版画の修復は、The Robert F. Lange Foundationの援助により行われました。

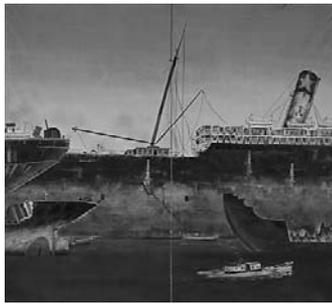
©Honolulu Academy of Arts



諸国名橋奇覧 三河の八つ橋の古図

学芸員の眼

西山英雄の師は西山翠嶂。翠嶂の師は竹内栖鳳。師系は更に幸野棟嶺、塩川文麟、岡本豊彦、松村呉春と上り、四条派の本流に位置します。しかし、翠嶂の一門の中からは本文掲出の創画会設立メンバーや堂本印象ら多様な画家を輩出していますし、西山英雄や今回出品の作家も四条派と位置づけられることは今日勿論ありません。画塾青甲社を解散した時の「流派などの大切にした約束事にはそれなりの意義があったし、翠嶂先生がこれまで塾をつづけてこられたことにはその時代の意味があった」という言葉からは、技法や目に見えること以上に伝えるべき事がある。という想いが感じられますし、今回出品の作家の作品からは、英雄の薫陶がなし得た「多様さ」を感じることができるでしょう。



西山英雄 廃船 昭和9年
京都市立芸術大学



坂根克介 観音
平成16年

今号では真正直で情熱的、温情深いと評された西山英雄の人柄と画塾にまつわるエピソードを紹介します。

明治四十四年京都市に生まれた西山英雄は、十四才で画家を志し叔父の西山翠嶂の書生となります。玄関番などを務めながら、翠嶂主催の画塾「青甲社」に所属し精進を重ねます。二十三才、初めての帝展特選では、菊池契月や西村五雲の子息と同時に特選となったため「三御曹司」と新聞に取り上げられ、反駁します。審査員の土田麦僊に「私の絵に特選の価値がないのでしょうか」と直談判に行った有名なエピソードは英雄の真正直さを物語っています。「書生ついで御曹司どころじゃないんです。お茶汲みしたり、雑巾がけをしたりもしました。うちの先生（翠嶂）はとても厳しかったです。」と当時を語っています。

昭和二十三年、日本画壇の閉鎖的・封建的体質を批判し「創造美術（創画会）」が結成されました。立ち上げに青甲社から5人（上村松篁、沢宏毅、秋野不矩、向井久万、広田多津）が師・翠嶂に無断で参加。英雄はそれには踏みとどまり、翠嶂と青甲社を守ります。しかし、昭和三十二年、翠嶂が逝去すると、青甲社の解散に踏み切ります。「画塾の封建制度は崩壊さすべき」とし、その弊害として「作者の思想が無くなる」ことを挙げています。画家育成に際して、作者の思想や個性を尊重する英雄の考えが窺えます。そのことは青甲社を引き継いだいくつかのグループや、京都学芸大学（現・京都教育大学）、そして金沢美術工芸大学での後進の指導に認めることができます。本展では師・西山英雄から受けた薫陶、エピソードも出品作家の言葉で紹介致します。

特別陳列

西山英雄と一門展

—昭和の巨星と金沢美術工芸大学出身の俊英たち—

7月16日(土)~9月6日(火)会期中無休

第4展示室

さがしてみよう

7月16日(土)~9月6日(火)会期中無休

第6展示室

学芸員の眼

「さがしてみよう」の展示室でさがす活動をする時の方法、作品をじっくりみる。について具体的な方法を紹介しましょう。まず、絵画などの作品では、離れてみてみると作品の全体が見渡せます。そして近づいてみると、離れてみた時分からなかった細かい部分が見えてきます。離れたり近づいたりして見え方を確かめてみると、思いがけない発見が。また、彫刻など立体作品は、作品の周りを一周まわってみましょう。一方方向からみるだけでなく前から見たり、後ろから見たりといろいろな角度からみたり、しゃがんで目の高さを変えるなどしてみます。このようにみる位置を変えることで、また、新たな発見に出会えることでしょう。

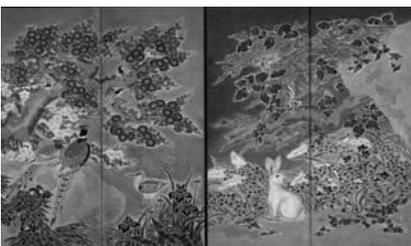
「夏休み親子で楽しむ美術館—さがしてみよう—」の展示室は、3つのコーナーで構成されています。

1つ目は、「季節をさがしてみよう」。作品に表現されている季節を春・夏・秋・冬の4つの季節からさがしだします。下段掲載の木村雨山「春秋の譜」のように「どちらが春?」「どちらが秋?」のわかりやすい作品から、はっきりした決めたをさがすのが難しい作品もあります。みなさんに『さがしてみよう』と呼びかけていますが、答えは1つとはかぎりません。見る人によって違う答えになる作品もあるでしょう。その時は、「どうしてそう思った?」と親子や家族で話し合ってみてください。さらに作品をみるぐちからアップのチャンスです。

2つ目は、「いくつあるかさがしてみよう」。そ

れぞれの作品の中の、あるものについて、どこにあるか、いくつあるかさがしてみます。数えるものの数がたくさんあるものやどこから数えればよいかわかりづらいものなど、ちよっぴりいじわるな「さがしてみよう」のコーナーです。

3つ目は、「おめでたいもようをさがしてみよう」。日本には、昔から伝わる伝統のもようがあります。その中でも松竹梅や鶴亀など縁起のよいとされるもようを工芸作品からさがしてみます。それぞれのもようの意味を知り、どんな思いで作品にそのもようを刻んだかを考えてみてください。この「おめでたいもよう」は、この展示室だけでなく第2展示室で開催の「古九谷・再興九谷名品展」などでもたくさん見つけることができるでしょう。是非、他の展示室へも足を運んで「おめでたいもようをさがしてみよう」。



春秋の譜 木村雨山



長寿飴皿 二代徳田八十吉

古九谷・再興九谷
名品展

7月16日(土)~9月6日(火)会期中無休

今回の展示で再認識していただきたいのは、古九谷という概念の広さです。そこで特に古九谷の小品について、近年展示されなかった館蔵品を今回選定しています。古九谷といえば豪華華麗な平鉢類を思い起こすかたが多いと思いますが、小皿類や徳利にこそ味わいがあるとしてコレクションされているかたもいます。平鉢と小皿は同一意匠のものもあれば、全く別の印象を与えるものもあります。そしてこの両者を眺めていると、九州の色絵から古九谷、そして再興九谷から現代の九谷焼までを包含するような美意識を感じることができま

す。それは、自然や文化を含む広い意味での加賀の風土が九州から選び、独自に洗練させていった色絵の美意識ということができるでしょう。やきものを展示する際に頭を悩ませるのが、裏面や見込を見たいとのご要望にどのように対応するかです。その一方で、強い地震も想定して展示を行わなければなりません。そこで今般『九谷名品図録』の増補版刊行にあたり、小品を除く古九谷全作品と、主要な再興九谷の裏面と銘の図版も掲載することで、この問題の改善を図りました。同図録では古九谷平鉢類の解説を全面的に書き改めたほか、近年の発掘成果なども概説に織り込んであります。この機会に是非ご覧ください。

色絵万年青図平鉢 吉田屋窯
江戸19世紀

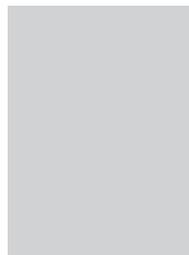
書跡と文房具

7月16日(土)~9月6日(火)会期中無休

書に欠かせない硯、筆、紙、墨は中国の宋時代以降「文房四宝」と呼ばれ、文人の間で最も重要な道具として珍重されてきました。筆、紙、墨は消耗品でもあります。硯は半永久的に所蔵が可能なところから、中国では殊に硯に対する思い入れが生まれました。そのため「硯に魂が宿る」と捉えていました。それゆえ文房具は単に書の道具というよりも、伝統ある文人思想を背景として発展した工芸品と言えます。

墨はその一部を二十二年ぶりに展示しますが、乾・坤の二箱に各五段重ねとなり、墨の形に応じて刳形を設け、合計五十五挺が収納されています。今回は第二重と第五重の九挺の墨と付属する墨譜

と呼ばれる調書と拓本の二冊を展示します。その中には、割れや欠けのあるもの、使用跡のある墨も含まれていますが、そこに愛用品としての魅力が伝わってきます。その他に中国の文房具として、文鎮・筆架・水滴・水入・墨床などに、日本の文台・硯箱を合わせて展示し、一部に室礼の展示を工夫してみました。こうした文人思想に基づく文房具のコレクションは、その多くが小堀遠州や三代藩主前田利常の収集品と思われま



墨 第二重

地域文化が育んだ 美術館・博物館の 名品展

会期：9月11日(日)～10月23日(日)



壺屋 呉須絵線彫魚文皿
沖縄県立博物館・美術館



絵唐津 萩文壺
佐賀県立九州陶磁文化館



常滑 三筋壺
愛知県陶磁資料館

全国の伝統的工芸品を業種別にみますと、染織品が最も多いのですが、専門の美術館・博物館が多いのが陶磁器です。本展で取り上げる三十三件のうち十五件が陶磁器です。今回は陶磁器部門の主な展示作品を紹介します。瀬戸焼では、平安時代の重文・灰釉多口瓶（猿投）、加藤唐九郎の黄瀬戸縁鉢。常滑焼では、平安時代の三筋壺や甕、山田常山の朱泥茶注。美濃焼では、桃山時代の志野山水文大鉢や織部、荒川豊蔵の瀬戸黒茶碗。越前焼では、平安時代の三耳壺、桃山時代の片口小壺。信楽焼では、室町時代の檜垣文壺、江戸時代の胴四方掛花入。京焼・清水焼では、江戸時代の銚子焼染付舟形向付、六代清水六兵衛の芒花瓶。丹波焼では、室町時代の壺、江戸時代の朝倉山椒壺。備前焼では、桃山時代の種壺形水指、金重陶陽の三角播座花入。萩焼では、江戸時代の割俵形茶碗、三輪休和の割高台茶碗。伊万里・有田焼では、江戸時代の色絵花鳥文皿（柿右衛門様式）、重文・染付鷺文三脚付台鉢（鍋島）、十四代酒井田柿右衛門の濁手撫子文大皿、十三代今泉今右衛門の色絵薄墨露草文鉢。唐津焼では、桃山時代の絵唐津萩文壺、十三代中里太郎右衛門の叩き唐津象嵌魚文壺。壺屋焼では、江戸時代の畠文・呉須絵線彫魚文皿、金城次郎の魚文線彫皿などです。このほか、それぞれの地元における重要な作家の作品も多数展示いたします。

日本新工芸家連盟は、工芸の原点を見つめ、各作家が工芸素材を生かし、技術を駆使して現代に望まれている生活と美との調和をテーマとして、制作活動を続けています。第三十三回日本新工芸展の出品作と石川会員の近作を展示いたします。

◆主な出品作家
北出不二雄・高光一生・原田実・戸出克彦

◆入場無料
◆連絡先
新工芸石川会展事務局 戸出克彦
金沢市宮野町ト74

TEL 〇七六―二五七―五九五―

日本のフォーヴィズム（野獣派）の流れを汲む独立展は、昭和五年に結成され、須田国太郎や林武など、自由で個性強烈な作家を輩出していることで知られる日本有数の団体展です。石川独立は、昭和五十四年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足し、今回二十一回展を迎えます。メンバーは各自三五点を出品し、会期中の八月二十七日（土）には批評会を行います。

◆出品作家
金子顕司、京岡英樹、桑野幾子、田井淳、西又浩一、堀一浩、三浦賢治、水野寿代、山田裕之

◆入場無料
◆連絡先 堀一浩
TEL 〇七六―二三三―一九〇九―

第8・9展示室

第21回

石川独立DO展

8月25日(木)～8月28日(日)会期中無休

第7展示室

第25回

日本新工芸石川会展

8月25日(木)～8月29日(月)午後6時まで

セルフ・ポートレート展 —キャンバスの中の巨匠たち—



作家を知り、より広い、より深い作品鑑賞に繋げていただきたい。そういう思いで開催した展覧会です。自画像の横に同じ頃の写真を添え、ある作家については作品やパレットも交えて、明治から現代まで六十五作家、一三二点の構成となりました。

毎週日曜日の午前には担当学芸員がギャラリートークを行い、約一時間、三つの展示室を回り、解説させていただきました。本展の場合、作家のエピソードを重点的に語る事ができるといのが強みで、参加いただいた方々にはお楽しみいただけたのではと思っております。さて、こうして会場を回っていきますと、解説パネルがもつと必要だったかという気がいたしました。

作品キャプションの下には作家略歴にほんの少し作家の特徴を加えた作家解説を添えていたのですが、パレットから伺える作家像やギャラリートークのダイジェスト版のような解説があってもいいのでは考えたのです。でも、作品を見るよりも文字を読む時間が長くなってしまつては本末転倒というものです。自画像が画家の内面を描いたものであれば、それを見ることによって、より画家を知ることがができる。とはいふものの、経歴などは文字情報でしか得ることはできません。作品とキャプション、その兼ね合いについて考えさせられた展覧会でした。

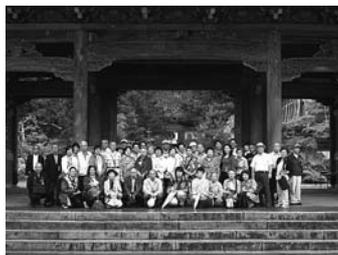
第九回 美術館バスツアー報告

平成二十三年六月二十六日

第九回を数える美術館バスツアーは、能登の寺社を訪れました。今回も募集定員を超える応募があり、当選した四十四名の方にご参加いただきました。

最初の見学地は、加賀藩初代藩主前田利家との縁が深い志賀町の高爪神社です。博識な副宮司さんから詳しい説明を受け、利家の書状を特別に公開していただきました。昼食後は、曹洞宗の古刹の總持寺祖院へ向かいました。近辺の展示施設・禅の里交流館では、展示資料を見ながらの説明、伝韓幹筆「牧馬図」などの特別展示があり、さらに寺の内部でも詳しい説明がありました。また最後の穴水町・明泉寺では、境内古絵図を観せていただき、ご住職さんから詳しい説明を受けての見学となりました。

時期的に梅雨の只中であるため、あいにくの雨模様でしたが、各見学地や参加者の皆様のご協力により、無事に全行程を終了することができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



總持寺山門にて

8月の行事予定

■親子鑑賞講座	二階コレクション展示室	午後十三時三〇分	参加無料
七日(日)	アートの森で、さがしてみよう		
■土曜講座	美術館講義室	午後十三時三〇分	聴講無料
二十七日(土)	防虫について	宮 衛 学芸第一課長	
■伝統芸能文化シネマ	美術館ホール	午後十四時三〇分	入場無料
六日(土)	加賀象嵌 中川衛 美の世界 —新たな伝統を作る— 中川衛氏と白石和己山梨県立美術館館長との対談もあります		

企画展Topics 地域文化が育んだ美術館・博物館の名品展



越前 三耳壺 福井県陶芸館



志野 山水文大鉢
岐阜市歴史博物館



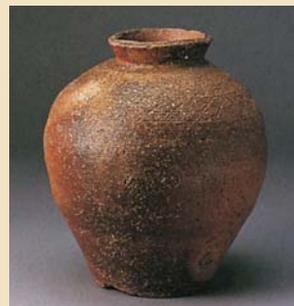
黄瀬戸縁鉢 加藤唐九郎
愛知県陶磁資料館



丹波 壺 兵庫陶芸美術館



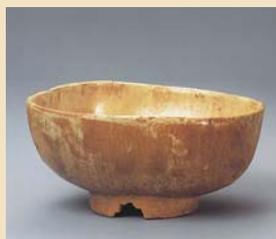
粟田 銕絵染付舟形向付
京都府京都文化博物館



信楽 檜垣文壺
滋賀県立陶芸の森陶芸館



重文 鍋島 染付鶴文三脚付台鉢
佐賀県立九州陶磁文化館



秋 割儀形茶碗
山口県立萩美術館・浦上記念館



備前 三角搦座花入 金重陶陽
岡山県立美術館

次回の展覧会

前田育徳会尊経閣文庫分館	第2～第6展示室
加賀藩の美術工芸	秋の優品選
企画展示室	
当館企画展 地域文化が育んだ美術館・博物館の名品展	

ご利用案内

コレクション展観覧料

- 一般 350円 (280円)
- 大学生 280円 (220円)
- 高校生以下 無料
- ※ () 内は団体料金

8月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

8月は無休で開館します



やさしさ品質

お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン

地階 **エムザ** 食品館

広告

“もっとお客様へ、もっと地域に”

MEITETSU
MIZA
めいてつ・エムザ
金沢・むさしが辻 TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/

石川県立美術館だより
第334号(毎月発行)
2011年8月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>